

東京六大学野球連盟
新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン

【基本方針】

チーム関係者は試合、移動等にあたって、新型コロナウイルス感染防止対策の基本となるソーシャルディスタンスを確保すること、密接、密集を避けること、マスクを着用すること等を常に意識しながら行動することとする。

【観戦について】

原則、有観客試合とし、収容人数の上限については政府からのイベント開催制限に準ずることとする。

【球場に入る際の感染予防策】

(1) チーム関係者

- ① 「健康チェックシート表（チーム用）」（別紙1）を試合当日、連盟に提出する。
ただし、起床直後及び出発前に検温を行い、37.5度以上あった者は球場への入場を禁止する。
また、同チェックシートの質問3項目のいずれかに「有」とチェックがあった者の球場への入場可否については、連盟がチーム責任者と協議して判断する。
- ② 関係者入口にサーモグラフィを設置し、体温が37.5度以上と反応があった場合は非接触型体温計で再検温をする。非接触型体温計の再検温でなお37.5度以上の場合は、接触型体温計で再々検温をする。
- ③ 関係者受付（入口）で消毒液による手指消毒を行う。
- ④ マスク着用を必須とする。

(2) 連盟関係者

- ① 関係者受付（入口）で検温を行い、37.5度以上あった者は球場への入場を禁止する。また、「健康チェックシート表（連盟）」（別紙2）に必要事項を記載し、同チェックシートの質問3項目のいずれかに「有」とチェックがあった者については、連盟が当事者に内容を確認のうえ、球場への入場可否を判断する。
検温後は「検温済」の専用用紙をIDの中に入れて表示する。
- ② 関係者入口にサーモグラフィを設置し、体温が37.5度以上と反応があった場合は非接触型体温計で再検温をする。非接触型体温計の再検温でなお37.5度以上の場合は、接触型体温計で再々検温をする。
- ③ 消毒、マスク着用は、上記（1）と同様とする。

(3) 報道関係者

- ① 関係者受付で、検温を行い、37.5度以上あった者は球場への入場を禁止する。また、「健康チェックシート表（報道関係者）」（別紙3）に必要事項を記載し、同チェックシートの質問3項目のいずれかに「有」とチェックがあった者については、連盟が当事者に内容を確認のうえ、球場への入場可否を判断する。
検温後は「検温済」の専用用紙をIDの中に入れて表示する。
- ② 関係者入口にサーモグラフィを設置し、体温が37.5度以上と反応があった場合は非接触型体

温計で再検温をする。非接触型体温計の再検温でなお 37.5 度以上の場合は、接触型体温計で再々検温をする。

- ③ 消毒、マスク着用は、上記（1）と同様とする。

（4）観客

- ① 以下の事項に該当する場合は入場をお断りする。

（i）過去 1 週間以内から現在までに体温 37.5 度以上（球場入口通過時にサーモグラフィで体温検査実施）、強い倦怠感、感冒様症状（咳、咽頭痛、息苦しさ等）、味覚・嗅覚異常などの異変がある場合を含む体調不良のある者。

（ii）PCR 検査陽性歴があり、（1）有症状者では、発症日から 10 日未満、かつ、症状軽快後 72 時間以内（2）症状軽快後 24 時間経過から 24 時間以上の間隔をあげ、2 回の PCR 検査で陰性を確認できていない、または（3）無症状病原体保有者では、陰性確認から 10 日未満（4）検体採取日から 6 日間経過後、24 時間以上の間隔をあげ 2 回の PCR 検査陰性を確認できていない

（iii）濃厚接触者として自宅待機中

※濃厚接触者：患者（確定例）の感染可能期間に接触した者。なお、濃厚接触者の指定は該当者の居住区、市の保健所が判断する。

（iv）家族が濃厚接触者として自宅待機中

（v）家族に（i）におけるいずれかの体調不良がある

（vi）海外から帰国（日本に入国）して 14 日未満

（vii）マスク非着用者

- ② 各入場口にサーモグラフィを設置し、体温が 37.5 度以上と反応があった場合は非接触型体温計で再検温をする。非接触型体温計の再検温でなお 37.5 度以上の場合は、看護師立ち会いのもと、接触型体温計で再々検温をする。

- ③ 球場入口で消毒液による手指消毒を行う。

- ④ マスク着用を必須とする。忘れた場合や破損している場合は購入を促す。

- ⑤ 観客同士の接触を極力避けるよう動線を工夫する。

（5）応援団（部）

- ① 「健康チェックシート表（応援団用）」を試合当日、連盟に提出する。

ただし、起床直後及び出発前に検温を行い、37.5 度以上あった者は球場への入場を禁止する。

また、同チェックシートの質問 3 項目のいずれかに「有」とチェックがあった者については、連盟が当事者に内容を確認のうえ、球場への入場可否を判断する。

入場が可能な部員は、各大学 150 名以内（部長、監督、コーチ含む）とし、健康チェックシートへの記載は全部員を対象とする。

- ② 球場への入退場は、15 番入口とし、入場時刻は開門時刻の 30 分前からとする。

- ③ 第 2 試合の部員の待機場所は、15 番入口入ったところのコンコース内とし、第 1 試合終了後に入れ替えを行う。

- ④ 応援活動が可能なエリアについては、指定の外野席エリアとする。

ソーシャルディスタンスを考慮した部員の配置図を作成し感染防止対策を講じたうえで応援行為を行う。

ライト側 Fブロック 27段1番～16番 28段1番～16番 29段1番～16番
30段1番～15番 31段1番～13番
Gブロック 22段～24段 3番～11場 25段～31段 3番～12番
Hブロック 20段～25段 1番～13番 26段～28段 1番～14番 29段1番～12番
Iブロック 18段～21段 1番～9番 22段～26段 1番～14番 27段1番～12番
Jブロック 21段1番～13番 22段1番～13番 23段1番～14番
24段1番～14番 25段1番～14番 26段1番～12番

レフト側 Oブロック 21段1番～14番 22段1番～14番 23段1番～14番
24段1番～14番 25段1番～14番 26段1番～12番
Pブロック 18段～19段 7番～14番 20段～21段 7番～15番
22段～26段 1番～14番 27段 1番～12番
Qブロック 20段～23段 1番～13番 24段～28段 1番～14番 29段 1番～12番
Rブロック 22段～25段 1番～11番 26段～29段 1番～12番
30段～31段 1番～9番
Sブロック 26段1番～13番 27段1番～16番 28段1番～16番
29段1番～16番 30段1番～16番 31段1番～16番
32段1番～14番

- ⑤ 指導者、全部員はマスク着用を必須とする。
- ⑥ 吹奏楽部の演奏は、スポーツ現場における感染症予防対策の経験が豊富な専門家からの助言を踏まえ、注意を払ったうえで行う。
- ⑦ 使用が可能なトイレや通路については、球場の指示に従うこととする。

【チーム関係者の感染予防策】

監督、コーチは新型コロナウイルス感染防止対策を念頭に置きながら選手を指導することとする。

(1) 球場への移動

- ① 選手は原則、チームバスを使用する。
- ② その他の部員は第三者との濃厚接触を回避するため、公共交通機関を利用する場合は、混み合う時間帯をなるべく避けるように注意する。
- ③ 移動中は、マスク着用を必須とする。

(2) 合宿所

- ① 起床直後と出発前の検温を行う。
- ② 食事は、ビュッフェスタイルを避け、隣同士との距離を空ける。
- ③ ミーティングを行う場合は、隣同士との距離を空ける。
- ④ 不要な外出は行わず、外出時はマスクを着用する。
- ⑤ 外部との接触（面会）は極力避ける。

(3) 試合前後の流れ

- ①ロッカーやベンチ裏では、チーム全体でのミーティング、長時間の滞在を避ける。
- ②球場内では外部者との接触を避ける。
- ③消毒液をダッグアウト、選手控室に配置し、適宜消毒を行う。
- ④ウォーミングアップ時のマスク着用は必須としない。

第1試合

【試合前】

神宮到着後、バスは正面（7番入口）につけ選手は降車。

降車後、ロッカーに寄らず直接ベンチ又はベンチ裏に入る。

喫食する場合は長時間の滞在を避けたうえでベンチ裏のスペースを使用する。

グラウンドインは9:30以降（プロ併用日は8:30以降、早慶戦は別途調整）。

【試合後】

ベンチ又はベンチ裏にある道具は直ちにグラウンド上に出す。

取材の順番に関しては、勝敗に関係なく三塁側のチームからとし、場所は記者席裏。取材対象者は監督と指名選手2名の3名まで。

チームのバス、荷物車は13番入口付近の駐車場にて待機。各チーム2台ずつ、合計4台は駐車が可能。

選手は必要な道具を持ち、グラウンド内から13番入口（レフト側のとりあい）に向かい、直接バスに移動する。

着替えを行う場合は車中、もしくは駐車場スペースにて速やかに行う。

第2試合

【試合前】

神宮到着後、バスは正面（7番入口）につけ選手は降車。

到着後、それぞれのロッカーに移動。

ロッカーは第1、2、どちらも使用することが可能。

喫食する場合は長時間の滞在を避けたうえで第1、2ロッカーを使用する。

球場外でアップを行う場合は1番入口～13番入口間の外野側の外周（アーケード）にて行う。ただし、個人でバラバラと移動してのアップは禁止とし、出入りに関しては正面（7番入口）のみとする。

第1試合終了後、外部との接触を避ける為に、第1、2ロッカーから中通路を通り、ベンチ横のグラウンド入口からグラウンドに入る。

グラウンドイン後は荷物をグラウンド上に置いて外野でアップを行う。

第1試合のチームが退場後、ベンチに荷物を入れキャッチボールを開始する。

第1試合と第2試合の試合間は25分間とする。

消毒作業を行うため、第1、2ロッカーには荷物を残さない。

【試合後】

第1試合の流れと同様。

(4) 試合中

後記【試合について】に記載する。

【連盟の感染予防策】

- (1) 本部席、審判控室、記録室、放送室等は、使用する者が定期的に換気する。
- (2) 各諸室、関係者用トイレには、消毒液を配置し、消毒や手洗いを徹底する。
- (3) 球場内は、マスク着用を必須とする。
- (4) 座席の間隔を一定の距離に保つ。
- (5) 不要不急の外出、外食を避ける。
- (6) グラウンドや記者席への移動は連盟役員(ID着用者)のみとし、各校のOBや関係者の移動は禁止(IDを発行しない)とする。

【報道関係者の感染予防策】

- (1) 記者席では、使用する者が定期的に換気する。座席の間隔は、一定の距離を保つ。
- (2) 記者席に入室出来る人数は各社2名までとする。
- (3) カメラマン席に入室出来る人数は各社1名のみとし、入退席の移動は観客席からのみとする。
- (4) 記者席には、消毒液を配置し、消毒や手洗いを徹底する。
- (5) 球場内は、常時マスク着用を必須とする。
- (6) チーム関係者への取材は、取材対象者を事前に連盟に通知(監督、指名選手2名以内)する。
- (7) 取材する時は、2m以上の距離を保ち、各社1名のみとする。なお、取材エリアは記者席裏のみとし、ぶらさがり取材、囲み取材は禁止する。
- (8) 取材の順番に関しては、勝敗に関係なく三塁側のチームからとし、時間は10分以内とする。
- (9) テレビカメラの取材に関しては、各社2名までとする。
- (10) 中継各社のスタッフについては必要最低限の人数(要相談)とする。
- (11) 学生新聞等の学内団体については、各団体の人数を1名のみとし、取材エリアは1、3塁側の雑協席のみとする。ぶらさがり取材、囲み取材は禁止する。

【観客の感染予防策・注意喚起・要請】

- (1) 観客の座席は極力2m以上(最低1m)離すこととする。また、観客席で大声をだすこと、太鼓等の鳴り物を使うこと、応援歌の合唱、及びエールを送ること等を禁止する。
- (2) 放送やビジョンを用いて頻繁なマスクの着用勧告(熱中症が懸念される場合は、「こまめな水分補給」「周囲の人と距離を十分にとれる場所でマスクを一時的にはずして休憩」も状況に合わせて促す)。なお、球場内での飲酒は禁止する。
- (3) 緊急時の連絡先としてメールアドレスの提供(特設のURLを作成しQRコードを配布)をお願いする。
- (4) 座席番号の記録を呼びかける(席をスマートフォン等のカメラに記録するように促す案内、座席の撮影、座席番号のメモ保存等)
- (5) 一度お座りになられた座席からの移動はご遠慮いただく。
- (6) 感染者との接触を通知する「接触確認アプリ」の導入を促す。
- (7) 感染防止のための行動制限(回遊制限、規制退場、応援制限、飲食販売制限等)への理解を促す。
- (8) 感染が判明した場合及び濃厚接触者と指定された場合への連盟指定の連絡先への連絡協力を促す。

す。

- (9) 感染が判明した場合、対象席番の情報を HP 等で公表し連絡する（自治体及び保健所との協議の上感染拡大が懸念される場合に保健所との協議で陽性感染者の座席情報と近隣座席購入者への連絡実施等）
- (10) 試合後に使用したエリアの観客席、手すり等共用部分の消毒を行う。
- (11) 球場内のトイレにも消毒液を用意し、手洗いの励行を喚起する。
- (12) ファウルボールの回収は部員及び球場スタッフが行い、ピンバッチ交換サービスは中止とする。

【試合について】

試合開始及び試合終了時、ホームベースをはさんで 2 m 以上の間隔をあけて両チーム向き合って整列し、挨拶を行うこととする。

(1) 審判員

- ① 球審
マスクの着用、または球審用マスクシールドを装着する。
- ② 塁審
マスクの着用は必須としない。
- ③ 熱中症の予防には、十分に注意する。

(2) チーム関係者

- ① ダッグアウト内では選手同士の間隔の確保に努める。
- ② ブルペン控室はファウルグラウンド上（プロ野球に準ずる）に設置する。
- ③ 出場している選手以外の控え選手及び監督・コーチ等のスタッフ（ベースコーチを除く）は、原則マスク着用とする。
- ④ 素手でのハイタッチ、握手及びメガホンの使用等を禁止する。
- ⑤ 試合中、唾を吐く行為、手を舐める行為は禁止する。
- ⑥ 試合前やイニング間の円陣は一定の間隔を保つ。
- ⑦ 投手交代等でマウンドに集まる場合、できるだけ選手、監督（コーチ含む）との間隔をとり、可能な限り接触を避ける。
- ⑧ スポーツドリンク等の回しのみは禁止する。
- ⑨ ファンとの接触（握手、サイン等）は禁止する。
- ⑩ 取材を受ける場合は連盟の指示に従い 2 m 以上の距離を保つ。
- ⑪ 控え部員の観戦場所は決められた指定のエリアとする。

(3) 連盟、球場関係者

- ① 使用する諸室等の消毒は徹底する。

【感染者が発生した時の対応】

(1) リーグ戦前日までの対応（「図①」参照）

- ① チーム関係者
・チーム内の体調不良者が医療機関から新型コロナウイルスに感染の疑いがあると診断された場合、チーム代表者は大学及び連盟に報告する。

- ・チーム関係者は検査結果を大学及び連盟に報告し、保健所の指示、指導に従い陽性者には隔離、濃厚接触者（濃厚接触の可能性のある者を含む）には合宿所もしくは自宅待機の措置を行う。
- ・チーム代表者は大学の判断によりリーグ戦に出場可能な場合は選手数を連盟に報告する。

（２）リーグ戦期間中の対応

① チーム関係者

- ・チーム代表者はすみやかに大学及び連盟に報告し、保健所の指示、指導に従い感染者の隔離及び濃厚接触者（濃厚接触の可能性のある者を含む）の合宿所もしくは自宅待機の措置を行う。

② 観客

- ・連盟までご連絡いただくよう促す。
- ・連盟は、任意で登録されたメールアドレス宛てに連絡を入れる。

③ リーグ戦日程の変更等について

- ・リーグ戦の中止を含む日程の変更等については、連盟が協議の上、決定する。

④ 当該チームの試合出場の可否について大学の方針に従い連盟で協議の上、決定する。

（３）リーグ戦終了後の対応について

チーム関係者、連盟及び観客に感染したことが判明した場合、保健所の指示、指導に従うものとする。

【緊急事態宣言等が発令された場合の対応】

政府や東京都から、緊急事態宣言に伴うイベント等の自粛要請が出された場合は、リーグ戦を中止とする。

【その他】

なお、本ガイドラインに記載されていない事象が発生した場合、連盟が協議の上、対応する。

以 上